

第5回 流域下水道管の破損に起因する道路陥没事故に関する
復旧工法検討委員会

1 日 時：令和8年5月12日（火） 10時00分～11時25分

2 会 場：都道府県会館410会議室

住所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3

3 出席者：（委員） 森田 弘昭 日本大学・教授
砂金 伸治 東京都立大学・教授
桑野 怜子 東京大学・教授
宮武 裕昭 国立研究開発法人土木研究所
・地質地盤研究グループ長
安田 将広 国土交通省国土技術政策総合研究所
・下水道研究室長
（埼玉県） 北田 健夫 下水道事業管理者
小島 孝文 下水道局長
橋本 翼 下水道事業課長
影嶋 浩一 下水道事業課管路対策幹
古茂田 裕一 中川下水道事務所長 ほか

4 議 事 （1）復旧工事の進捗状況について
（2）これまでの議論を踏まえた対応方針について

5 議事概要

○ 県（事務局）説明

- ・ はじめに、復旧工事の進捗状況について説明した。
- ・ 4月15日に県道を暫定2車線で供用開始したこと、現在はチュウ4マンホールの復旧工事を進めており、今後は仮排水管の撤去や八潮市雨水管の本復旧等を行っていくことなどを報告した。
- ・ 中川流域中央幹線下流部の複線化については、引き続きルート及び工法の選定や維持管理を考慮した人孔の配置などを検討していること報告した。
- ・ 次に、前回までの委員会での議論や各委員の助言・意見を踏まえた今後の対応方針について説明した。
- ・ 復旧工事や複線化計画の検討において、留意すべきリスク要因や懸念すべき事態と、それらに対する各段階（計画、設計、施工、維持管理）における対応を「新設管」「新旧境界部」「複線化区間」「中川流域下水道全体」の各範囲で「対応整理表」としてまとめ、実行していくことを説明した。

○ 委員からの主な質問や意見

(1) 復旧工事・複線化について

- ・ 復旧工事の際の汚水切替の困難さを踏まえ、複線化にあたっては、将来の運用を見据えた切替・振り分け機能（分岐点の設計思想）の検討が必要。
- ・ 中川横断部で破損が起きた場合の河川水流入等の最悪ケース回避として、遮断の仕組み（緊急ゲート等）とその機能確保について検討が必要。
- ・ 複線が出来上がり既設管の水がなくなって調査できるようになったならば、県のほか企業や学識経験者を受け入れ管路調査されることが望ましい。

(2) 「対応整理表」について

- ・ この「対応整理表」を用いて対応していくことについて、基本的な方向性は了承されたが、委員からはそれぞれの専門的知見に基づいた留意点や、表の一部修正追記等の意見が出された。
- ・ 主な留意点や修正意見
 - ・ 表は、引継ぎ及び更新（追加・修正）すること前提に運用すべき
 - ・ 全体的な方針と箇所別の実行項目は分けるなど、表中の整理にメリハリを付けたらどうか
 - ・ 時系列的整理（現在対応中、今後実施等がわかるように）が望ましい
 - ・ モニタリングは初期状態の把握が重要
 - ・ 設計条件を明示し引き継ぎに資する記録として残すことが望ましい
 - ・ 最大のリスクはモニタリングの計測結果や判断情報が組織内で継承されないことであるので、共有・継承の仕組みを重視すべき。
 - ・ 今後の対応にあたっては、県においてやるべきことは確実に実施するとともに、最新技術の動向や経営面などにも留意しバランスの取れた運用がなされることが望ましい。

○ 全般

- ・ 委員会としての議論は今回をもって終了とする。
- ・ 本日の意見を反映して「対応整理表」を修正し、個別に委員へメールで確認の上で確定する。
- ・ 会議資料、議事概要、「対応整理表」は、整えた上でホームページで公表する。
- ・ 今後は、県においてこの「対応整理表」をより充実させ活用することで、下水道管路の各箇所における様々なリスク要因や懸念すべき事態に対応していきたい。

以 上